城西大学 Sports
新入生歓迎特別号
2020年4月 vol.42
城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
発行所：〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 城西大学

総合力アップで「強い城西」へ！

男子駅伝部

今年もまたキャンパスにフレッシュな新入生を迎えた。今年の春は、新型コロナウイルス禍が社会やスポーツに大きな影を落としている。本学でも卒業式が中止となり学位記の授与のみ縮小して行われ、入学式も中止となった。新しいスポーツシーズンが始まった暁には、〝暗い雲〟を払うような各部の活躍を大いに期待したい。そんな各部の仲間たちを「城西大学スポーツ（Jスポ）」とともに応援しよう。

ご入学おめでとうございます

藤野　陽三
学長

ご入学おめでとうございます。

城西大学ではスポーツが盛んです。特に野球、駅伝、陸上競技、ソフトボールなどは全国でもトップレベルであり、OBやOGにはオリンピックに出場した選手もいます。

城西大学の名前を全国の皆さんに、特に大学入学を考える高校生に知ってもらう上で運動部の活動はとても重要だと思っています。運動部の活躍は在校生、卒業生にとっても励みになります。

スポーツは、とかく体力、運動力がものをいうと考えがちですが、明確なルールのもとで勝負を競うもので、フェアプレーというとても大事な社会規律を身につける場でもあります。昔さんざ聞かされたように、勝負は精神力や戦略で決まる部分も多く、タフな頭を作る訓練にもなります。

また、各部は何十名の部員から構成されますので、集団の中での生活の仕方を自然と覚えますし、チームで行うスポーツも多く、自分の役割を密観的に認識して行動する感覚も身につきます。

このように、大学の講義や実習などとは異なる経験を積める運動部に数多くの新入生が参加し、充実した学生生活を送ってもらいたいと思っています。

「どんな状況下でも力を出せる選手育てる」（櫛部監督）

「予選を確実に突破し箱根シード権を目指す」（菊地主将）

「強い城西」に向けて新たなスタートを切った男子駅伝部―写真＝両起の手がかりは、チーム内競争による総合力のアップだ。櫛部雅一監督は昨年10月の箱根駅伝予選会について「選手層の薄さが露呈。暑さに弱い選手もいた」と振り返る。今年度は例年になく多い15人の新入部員（1人はマネジャー）を迎えた。「少数精鋭でやってきたが、ある程度選手の数を増やして競争することによって精神的にも肉体的にも強くしていくことが必要。環境、天候に関係なく、どんな状況下でも力を出せる選手を育てていきたい」と語る。

最大の目標はもちろん箱根予選会の通過。「メンバーも残っているので本戦ではシード権獲得にこだわりたい」と抱負を語る。期待の選手として、1万㍍28分台の主将の菊地駿弥（経営4）と菅原伊織（経営4）の両エースに加え、成長著しい松尾周雅と砂岡拓磨の新3年生（経営）も挙げた。「4年生に追いつき、追い越す勢いで奮闘してもらいたい」と語り、昨年12月の全国高校駅伝で準優勝した倉敷高のメンバーだった山下空良（経営1）ら新入たちにも「チームの底上げに貢献してほしい」と期待を寄せた。【平田夏生】

有力新入生

（）内は出身高校／写真＝月刊陸上競技提供

山下 空良（倉敷）
5000㍍ベスト 14分15秒69

山本　樹（島田）
5000㍍ベスト 14分19秒89

山本 唯翔（開志国際）
5000㍍ベスト 14分24秒51

小島 大輝（美方）
5000㍍ベスト 14分27秒72

主将

菊地 駿弥

菊地駿弥主将に聞く

―チームの状況は？

（箱根予選会後）気持ちが下がった時もあったが、新体制が始まって雰囲気は悪くない。低酸素トレーニングなど強くなる環境が増えてきたので、目標に向かって進めている。

―新主将としての抱負は？

自分が軸となって新4年生全体でチームを引っ張っていきたい。全体ミーティングも重ねており、意見を出し合うことでチームもまとまってきたと思う。

―大バリ目標は？

全日本大学駅伝予選会、箱根駅伝予選会で確実に予選を突破。全日本本戦では総合6位、最低でもシードの8位以内。箱根本戦では総合5位、最低でもシード権獲得を目指したい。個人では、大学に入って一番を取ったことがないので、関東インカレの1万㍍で日本人トップ、5000㍍で8位入賞を目指したい。

■プロフィール
部員数：52人
部　長：真野博
監　督：櫛部静二
主　将：菊地駿弥（経営4）
主　務：藤木俊希（経営4）

■男女駅伝部試合日程
5月21～24日　関東インカレ
6月25～28日　日本選手権
10月17日　箱根駅伝予選会
10月25日　全日本大学女子駅伝
11月1日　全日本大学駅伝
12月30日　全日本大学女子選抜駅伝
1月2～3日　箱根駅伝

環境・スタッフ充実強化　球場は全面人工芝

硬式野球部

タフさ・厳しさ・勇気
―100％の力を出し1部復帰へ

*神宮球場仕様。で美しく生まれ変わった硬式野球部グラウンド

「連勝して乗っていきたい」（捧主将）

社会人野球の「JFE西日本」の監督だった村上文敏監督による2年目のシーズンが始まった。全面人工芝化の球場リニューアル工事も完了。JFE西日本から宮富洋二、元監督の代田建紀の2氏らをコーチに迎えて、環境、スタッフとも充実強化が図られた。

村上監督が理想とするのは、投手を中心に守り勝つ「負けにくいチーム」。そのためのチーム作りには、「やるべきことを全力で取り組んでいるかどうかを重要視している」と言う。「ミスを起こさないことより、ミスをしてしまった後に、もう一回トライしたいという心と身体のタフさを持った人間の育成と、厳しさの中にも許せる勇気を持ったチームの雰囲気づくりも重要」と付け加える。

リーグ開幕の相手は、昨春は1部だった大東文化大学。村上監督は「1部復帰は当然の目標だが、自分たちの力を100％出せるかどうかが大事」と強調する。

球場のリニューアルと村上監督の指導によって「皆のモチベーションが上がって、目の色が変わって取り組めている」と言う捧颯人主将（経営4）は、「キャンプでも勝ちにつながる練習と雰囲気作りをしてきた。連勝して勢いに乗っていきたい」と意気込んでいる。【宮薗芳佳樹】

主将

捧 颯人

有力新入生

（）内は出身高校とポジション

片平吉信（静岡・外野手）
金城祐太（岡山学芸館・外野手）
今枝玲央（城南静岡・外野手）
下村英真（東京学館浦安・外野手）
河野大輝（所沢商・内野手）

■プロフィール
部員数：130人
部　長：高柿　健
監　督：村上文敏
主　将：捧　颯人（経営4）
主　務：飯作辰弥（経営4）

■試合日程
4～5月　春季リーグ
9～10月　秋季リーグ
11月　明治神宮記念大会新人戦

爆発的な攻撃力で春リーグ連覇へ

「勝つことにこだわる」（古井主将）

女子ソフトボール部

昨夏の日本インカレ、秋の関東大学選手権ともに2回戦で涙をのんだ女子ソフトボール部。古井明乃主将（経営4）が今シーズン掲げるのが「勝つことにこだわる」だ。人数の多い新4年生が団結してチームを引っ張っている。新チームの特長について、長澤淑恵監督は「どこからでも点が取れる攻撃力」を挙げ、「課題の投手力を補う爆発的な打撃に期待したい」と語る。その中心が、岩佐美歩（経営4）と今田まな（経営3）だ。古井も「得点力はあると思うので、守備力をもっと磨いていきたい」と、「昨秋のリーグ戦は台風の影響で中止となったため、新チームとして初のリーグ戦となる春は連覇できるよう頑張っていきたい」と意気込む。

秋にはソフトボール場を備えた「JOSAスポーツフィールド」が完成する。気持ちを持ち、日本一に向けて精進していきます」と語っている。【君島麻未】

女子ソフトボール部の選手たち

■プロフィール
部員数：39人
部　長：山口理恵子
監　督：長澤淑恵
主　将：古井萌乃（経営4）
主　務：水沢　舞（経営4）

有力新入生

高橋 音森
福井・三国高
（茨城国体準優勝投手）

インカレ決勝進出へ意気込み

「元気よくプレーし目標達成したい」（萩原主将）

男子ソフトボール部

男子ソフトボール部は2017年の全日本大学選手権（インカレ）のベスト4（3位）越えを目指す。投打の柱は、昨年の関東秋季リーグでMVPを獲得した高橋陸（経営4。高橋は「春のリーグでもMVPを取れるような成績を残し、インカレでは決勝に残れるように頑張りたい」と意気込む。

チームは1部2全日本大学選抜チームに選ばれ、昨秋にインドネシアで開かれた強化合宿に参加した畠田真尋（経営3）も健在だ。主将の萩原捷仁（現代政策4）は「みんなで元気よくプレーし、目標を達成したい」と抱負。高橋も「萩原キャプテンとともにチームを引っ張っていきたい」と意気込む。

男子ソフトボール部の選手たち

■プロフィール
部員数：27人
部　長：木村聡一郎
監　督：蟹沢光浩
主　将：萩原捷仁（現代政策4）

■ソフトボール部　試合日程
4月　全日本総合選手権埼玉県予選
5月　春季リーグ
6月　関東学生選手権
8月　東日本大学選手権
　　全日本大学選手権
10月　秋季リーグ
11月　関東大学選手権

取材スタッフ
千田　夏生（薬学部5年）　君島　麻未（経営学部4年）
宝蔵寺佑樹（現代政策学部4年）　傳法谷佑樹（現代政策学部4年）
石川　慧（現代政策学部4年）　西村　太郎（現代政策学部4年）

アドバイザー
知見寺美紀（2014年度卒業）　吉田　美咲（2015年度卒業）
高桑　霞美（2017年度卒業）

Jスポ フェイスブック はこちら ▶ http://www.facebook.com/JOSAISPORTS

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験がある職員が取材・書き方を基本から指導します。興味がある学生、やる気がある学生、大歓迎です。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生もぜひ参加してください。

連絡はこちらまで ▶ j-sports@josai.ac.jp

新体制スタート──サッカーを通じ人間形成

女子チームも創設へ 今秋全面オープン「JOSAIスポーツフィールド」が後押し

サッカー部

■プロフィール
部員数：130人
部　長：佐々木謹也
監　督：東海林毅
コーチ：柴沼真（フットサル監督）
主　将：木次谷和希（経済4）
主　務：工藤健祐（経営4）

練習に励む選手たち

練習を指導する東海林監督（中央）

「皆一生懸命。いい手応え」（東海林新監督）

JOSAIスポーツフィールド

監督 東海林毅

主将 木次谷和希

サッカー部は、東海林毅・前立正大学ヘッドコーチを監督に迎え新体制でシーズンのスタートを切った。東海林監督は筑波大学大学院修了。日立製作所と柏レイソルでプレーした後、コンサドーレ札幌などでコーチを務め、最高位の指導者資格である日本サッカー協会S級ライセンスを持つ。部は今年度からフットサルにも取り組む。佐々木達也部長によると、「サッカーを通じた人間形成」を部の理念として、5年で関東1部リーグ昇格、フットサルは5年で全国トップレベルを目指すという。

東海林監督は「皆一生懸命で、いい手応えがある。全員が同じ方向に向けるような良いクラブ作りをしないと結果につながらない。そういう整備を1年かけても2年かけてもやっていきたい」と抱負。スタッフ、選手の投票で選ばれたという新主将の木次谷和希（経済4）は「サッカーの土台の部分をしっかり鍛えてもらっている。去年、関東リーグ昇格戦で悔しい思いをしたので、今年は昇格を果たしたい」と意欲を語った。

2021年度には女子チームを創設する。少子化にもかかわらず、女子高校生のサッカー人口は増えており、その受け皿となる。今秋、サッカー場2面を擁して全面オープンする「JOSAIスポーツフィールド」が、チーム創設を後押しする形となった。佐々木部長は「将来的には『サッカーの城西』として、魅力ある部活動となるべく努力していきたい」と語っている。【博法会化粧】

■試合日程
4月　彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会
　　アミノバイタルカップ2020
　　埼玉県大学代表決定戦
5月～7月　埼玉県1部リーグ（前期）
6月　アミノバイタルカップ2020プレーオフ
7月　アミノバイタルカップ2020
　　関東大学サッカー選手大会
9月～10月　埼玉県1部リーグ（後期）
11月　関東大学サッカー大会
12月　新人戦

昨シーズン越えを目指し「毎日必達」

「一人ひとりがチームの核に」（赤羽監督）

女子駅伝部

■プロフィール
部員数：15人
部　長：佐藤純訟
監　督：赤羽周平
主　将：森尻真優（経営2）
主　務：五十嵐梨菜（現代政策4）

「しっかりとタイム、順位を狙っていく」（森尻主将）

昨シーズンは関東で優勝、全国2大会で入賞するなど躍進した女子駅伝部。チームスローガンの「毎日必達」を掲げて、昨シーズン越えを目指す。

就任3年目となる赤羽周平監督、有紀子コーチ。赤羽監督は昨シーズンを『5年で駅伝日本一』という大目標に向けて、収穫の多い1年だった」と振り返る。4年生が抜けて、新シーズンは人数的にも厳しくなる。赤羽監督は「4年生たちが抜けた穴を埋めるには、新1年生を含めた一人ひとりが、『自分がチームの核になる』という自覚が必要」と強調する。

主将は新2年生（経営）のところもあるが、練習だけでなく生活面でも周りを盛り上げていきたい。第一目標の駅伝につながるように春のトラックシーズンで一人ひとりがしっかりとタイムと順位を狙っていきたい」と語る。エース格に成長した福嶋摩耶（経営2）は「ケガが多く納得のいく一年間ではなかった。継続した練習に耐えられる体作りをして、駅伝は昨年以上の成績、個人では関東インカレの1万㍍で優勝したい」と目標を挙げた。

※試合日程は1面参照

福嶋摩耶

森尻真優

有力新入生

柳川愛絵（仙台育英）
3000㍍ベスト　9分44秒38

伊藤柚葉（新潟明訓）
3000㍍ベスト　9分48秒87

村上礼乃（城西大城西）
3000㍍ベスト　9分33秒31

（＝内は出身高校　写真＝月刊陸上競技提供）

関東インカレ14年連続の1部残留目指す

各種目で表彰台、そして五輪へ

「全員一丸となって戦う」（水久保主将）

陸上競技部

■プロフィール
部員数：70人
部　長：柳下正和
監　督：千葉佳裕
主　将：水久保漱至（経営4）
主　務：小村　逸（経営3）

期待の選手

鈴木涼太（経営3）100㍍ベスト 10秒33
齊藤斗把（経営4）100㍍ベスト 10秒44
水久保漱至（経営4）★主将 100㍍ベスト 10秒35
伊奈颯太（経営2）400㍍HPベスト 50秒64

陸上競技部はまず5月の関東インカレ（関カレ）で14年連続の1部残留を目指す。昨年の大会で100、200㍍の2種目に上がり、連続残留にたくさん貢献した水久保漱至（経営4）が新主将となった。水久保は「チーム一丸となって戦い、しっかり1部に残留して、後輩たちに託せるよう頑張っていきたい」と意気込む。「個人としては、100、200㍍の2冠を達成して、2週間後の日本選手権につなげたい。目標は100㍍10秒0台」と東京五輪も視野に入れる。昨年、けがで本来の走りができなかった鈴木涼太（経営3）は「100、200㍍とも自己ベストを出し、関カレで得点できるように頑張ったい」と今シーズンを見据える。「400㍍リレーもいいところまで行けるのでは」と自信を覗せる。

昨年、100㍍で急成長した齊藤斗把（経営4）と400㍍ハードルの伊奈颯太（経営2）も日本選手権を見据える。齊藤は「100㍍は10秒2台を狙って、関カレでの個人賞とリレーの表彰台を目指したい」、伊奈も「関カレで先輩たちの連続入賞を引き継ぎたい。49秒台が目標で1番を取りたい」と力強く語った。【倉島咲未】

有力新入生

佐々木翼（霞ヶ浦）
400㍍ベスト　47秒96
（沖縄インターハイ準決勝）

深町飛太（敬賀）
400㍍HPベスト　51秒84
（沖縄インターハイ6位）

濵田寛志（大阪市立汎愛）
400㍍HPベスト　51秒16
（沖縄インターハイ4位）

（＝内は出身高校　写真＝月刊陸上競技提供）

■試合日程
5月21～24日
　関東インカレ
6月5～7日
　日本学生個人選手権
6月25～28日
　日本選手権
9月10～13日
　日本インカレ

新入生に贈る言葉

中善寺弘規　父母後援会会長

新入生の皆様、ご父母の皆様、ご入学おめでとうございます。

大学では、学ぶことの意義と幸せを胸に刻みながら、将来に向けた研鑽と挑戦の学生生活を送っていただくとともに、勉学だけでなく、幅広く様々な文化的・体育的活動や社会的活動を通じて人間形成に磨きをかけていただきたいと願っております。

父母後援会では、皆様が有意義な学生生活を謳歌できるよう様々な面から支援をしておりますので、ご相談等ございましたら、父母後援会事務局へご連絡ください。

皆様のご活躍を期待しています。

鈴木文雄　同窓会会長

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

城西大学は1965年に創立され、同窓生の数は約9万人となりました。同窓会は、この力を結集して母校の発展、名声高揚のお手伝いをしてきました。

同窓会は男女駅伝部、硬式野球部などに加え、2017年度からはサッカー部への応援も始めました。また、学生の皆さんが勉学だけでなく、国際交流にも踏み出せるようなサポートをささやかながら続けてきました。

水田三喜男先生は「学問による人間形成」を建学の精神に掲げました。学生の皆さんには、この精神とともに未知の世界、分野を切り開く「進取の心」を持って学生生活を送ってほしいと思います。同窓会もできる限りアシストしていきます。

活気・笑顔・勇気で城西アスリートを鼓舞

全學應援團リーダー部・チアリーダー部

昨年12月30日の富士山女子駅伝で

新たな仲間募集中！

各種大会で城西アスリートを鼓舞しているのが、全學應援團リーダー部・チアリーダー部だ。両部では、新たな仲間を募っている。

全學應援團リーダー部は昨年から諏訪大翔団長（経済4）ら3人体制。諏訪団長は「礼儀作法を学びたい」と應援團に入ったという。「応援することの大切さと楽しさを伝えられたら」と抱負。内気な性格を変えたくて應援團に入ったという中山直希さん（経済3）は「イベントに参加して選手や地域の方に元気を与えられているということにやりがいを感じる」と語り、今秋、関東学生選手権で1部復帰を果たした。山田主将は「部としての目標はまず優勝。個人としても優勝が第一。全体的に力を上げて、これからまた強くなれたら」と抱負を語っている。【西村大馬】

総合体育館の応援席

関東学生選手権で1部復帰「目標は優勝」（山田主将）

Let's Sports

弓道部

■試合日程
4月　春期トーナメント大会
6月　全関東学生選手権大会
　　全国大学選抜大会
8月　全日本学生選手権大会
9月　関東学生選手権大会
11月　全日本学生王座決定戦

■プロフィール
部員数：22人
部　長：上田秀雄
監　督：町田文利
主　将：山田尚毅（経済3）
主　務：神山海斗（経営3）

弓道部は男子14人、女子8人の計22人で活動している。山田尚毅主将（経済3）は「射への集中と礼を大事にするとともに、飛び道具なので注意して活動すること大事」と語る。

初心者は2、3年ほどという。「基礎部分から教えていくので、入ったら誰でもできます」と山田主将。弓道で身につけることとして、集中力と礼儀を挙げた。

最近は部員が少なくなって弱い時期もあったが、昨成拳太さん（経済2）は「入団して）努力することに大切さを学ぶことができた」「至誠天通」でさらに努力していきたい」と述べた。

チアリーダー部は4年生5人が抜けて現在は7人で活動している。高校ではチアダンス部だったという主将の深谷美結さん（現代政策3）は「アクロバットをやりたくて入部。練習は大変なこともあるが、演舞している時は楽しい。活気や笑顔や勇気を、大学内だけでなく地域の方々にも届けられたら」と話す。「箱根駅伝を応援したくて入部した上田彩瑛さん（薬学科2年）は「『お疲れ様』といろんな人から声を掛けてもらえてやりがいを感じる」と語った。

コラーゲンペプチドでジョイントケア

薬学部
医療栄養学科 助教
君羅 好史

今は縁あって薬学部で教員をしていますが、大学は体育学部で学び、器械体操を専攻するいわゆる体育会系の学生でした。自分の体を操る器械体操では、体重がパフォーマンスに影響します。体重を落とすために食事を抜いたことがありましたが、一時的には体が軽く感じられるのですが、すぐに疲れてしまい、競技をする上では、トレーニングと同じくらいに「食」も大切なのだということに気づくことができた選手時代でした。

現在所属する食品機能学研究室では、アスリートにとって大切な「食」について「コラーゲンペプチド」に注目して研究を行なっています。コラーゲンペプチドは、軟骨や骨といった関節を構成する細胞や組織における生理作用が解明されてきており、運動器（骨、関節、筋肉など）への効果が期待されている食品機能性成分です。食品機能学研究室で実施した研究では、城西大学男子駅伝部に在籍する選手たちに協力していただき、コラーゲンペプチドを1日あたり5㌘、8週間食べ続けてもらったところ、選手たちの膝の痛みが軽減され、筋肉の分解が抑えられることが分かりました。

駅伝のトレーニングを続けるためには、痛めやすい関節のケア「ジョイントケア」が必要になると思います。コラーゲンペプチドなどのジョイントケアに効果が期待できる食品の摂取をすることで怪我を予防して、大学での充実した選手生活を送っていただきたいなと思います。